



学級通信

365日

令和3年2月12日
岐阜市立岐阜東幼稚園
たいよう組 No.33

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が延長され、その後解除される動向になっています。これにより、楽しみ会の日程が定まっていない状況です。19日に行えるのか、それとも3月にずれ込むのか。決まっていないことというのは正直不安ですね。しかし、子供からはそんな気持ちは感じられません。なぜなら楽しみ会のために生活を送っている訳ではなく、一日一日を思う存分楽しんで生活しているからです。私もそれくらいの気持ちをもたないといけませんね…。あ～、でも気になる！緊急事態宣言はこの先どうなるんだ！？

桃太郎の劇のその後🍡

おおよそのセリフや動きができて、最後まで劇が進むことができました。繰り返すうちにスムーズに演じることができるようになり楽しくなってきたようです。「ももたろうやろう！」と声を掛けると、すぐに集まって、衣装を身につけて準備をします。劇ごっこが楽しいのです。園長先生が劇ごっこを始めた子供たちに、「劇は楽しいんだよ！」と話していました。子供たちはその時にはあまりじっくりしていない様子でしたが、繰り返すうちに楽しいことが分かってきたようです。

しかし、困ったことが…。劇の時間が長いのです。子供たちから、「楽しいけど、疲れる。」という声。それもそのはず。始めのうちは1時間近くかかったのです。「どうしたら時間が短くなるのかな？」と聞いてみました。「もっと、早くセリフ言ったらいいんじゃない？」「声を大きく出せば、先生がもう一回言ってって言わないから短くなる。」「ちゃんとセリフを覚えて、ウーンって言う時間をなくせばいい。」など、それぞれが思うことを話しました。確かにその通りですね。何より大事なものは、演じている人も見ている人も楽しむことです。長くなって疲れてしまっただけでは互いに楽しくありませんね。見ている人に楽しんでもらうことがたいよう組のみんなの目標なのです。それができたときには達成感でいっぱいになるでしょう。まずは、こあらさんやなつめさんにお客さんになってもらおうと思っています。



『びゅんびゅんごまがまわったら』(作:宮川 ひろ、絵:林 明子、童心社)を読んだことがきっかけで、びゅんびゅんごまブームになっています。牛乳パックの底で作ったこまをぐるぐると回して、音が鳴るまで回るように挑戦しています。最初の1回は回るのですが、連続で回すのが難しいのです。引っ張ったり、緩めたりといった力の入れ具合が大切ですがそのコツを掴むのに苦労していました。「なんで回らないんだろう。」「びゅんって1回は回るんだけどな。」そんな中、びゅんびゅんごま名人が現れました。「見て見て！」みんなの前で披露してくれました。力の入れ具合が絶妙なのです。「すごい！」と認める中、周りの子供たちは手の動きをよく見ているのです。そして、名人は「僕がコツを教えよう！」と言って、友達にやり方を教えてくれたのです。その後、次々に回る子が出てきました。諦めない気持ちと友達の姿から学ぼうとする気持ちが育っているのを感じました。「次は足で回してみたい！」「4個でやってみたい！」絵本のよように数を増やして回してみたいという願いがあるようです。きっとできる！

